

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	なかよしキッズ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 26日		~ 令和8年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 6名(きょうだい児が1組)
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 7日		~ 令和8年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間での話し合いができており、子どもに対する理解や情報の共有がなされていること	活動前の打ち合わせ、活動後の反省会などで事前の情報共有から活動後の見立て、明日以降の活動修正や展開へ活かすようにしている	時間がない中でも話をする時間を作り、日々の子どもの姿や少しの「できた」でも感じ、共感できるようにしたい
2	保育所等訪問支援を活用した併行通園先との連携が可能であり、訪問支援員との連携が密にできていること	事業所での支援ではなく、学校でその子本人が本人らしく集団の中で過ごすことを意識して、情報共有や支援目標の設定をしている	学校の先生方の意見や要望等も取り入れつつ、保護者や子どものニーズを意識して訪問支援を行っていききたい
3	作業療法士が常駐していることで、専門職による職員への指導や支援方法の共有ができること	活動内容で気になることや児の様子に応じた支援などを積極的に尋ねることで、子どもたちへの理解を深められるようにしている	専門職とのやり取りで子どもの理解を深めることができたなら、それを言語化して保護者や支援者へ伝えていけるようにしたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	同法人内の園行事含め地域の方と関わる機会はあるが、回数としては少ない	どのような事業や取り組みを行っているか説明や理解を求めるための関わる場が少ない	ハロウィンイベントで地域の方のお宅へ行く行事を今年度は再開したので、少しずつ地域と関わる場を増やしていきたい
2	虐待防止委員会や感染対策委員会などと、普段の活動や支援とのつながりを意識して活かしたり考えたりすることが少ない	普段の業務に追われていることから、直接支援とは違う部分には意識が向きにくい	子どもの命や権利を守るために必要な内容であることの周知と、実際の場面を想定して考えることができるような事例等を交えながら、短い時間で共有が図れるようにしていきたい
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 なかよしキッズ

公表日 令和8年 2月 27日

利用児童数 11名

6名
回収数 (きょうだい児1組)

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6				外活動が多く、部屋も人数に対して広く していただいているかと思ひます。 じゅうぶんにあると思ひます。	事業所だけでなく、地域の公園や法人で 管理する農園なども活用して活動スペース を確保しています。
	2 職員の配置数は適切であると思ひますか。	6				特に少ないと感じたことはありません。	管理者、児発管、保育士、児童指導員、 作業療法士等の有資格者がおりますので、 研修を踏まえてより専門性を高めて いきたいと思ひます。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思ひ ますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思ひますか。	5	1			特に支障はないと思ひます。	適切な視覚支援と、子どもたちが活動し やすいような環境設定を心がけていま す。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思ひますか。 また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思ひますか。	6				綺麗にされていると思ひます。	感染症等への対応を含めて、施設全体の 消毒も行っております。
適切 な支 援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思ひますか。	6				よく見てくださっているとと思ひます。	学習会(なかよしタイム)へのご参加あり がとうござひます。保護者の皆様か 参加されやすいような工夫をしていき たいと思ひます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思ひますか。	6				合っていると思ひます。	わかりやすく、またどのような取組み があるのかイメージしやすいものなるよ う工夫を続けていきたいと思ひます。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されて いると思ひますか。	6				個人に沿った計画書だと思ひます。	アセスメントシートへの回答ありがとうござ ひます。保護者の方のお気持ちに寄り添い、 子どもまんなかに支援ができるよう考 えていきたいと思ひます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族 支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思ひ ますか。	6				本当助かっています。	ガイドライン項目についてはわかりにく い部分もありますが、面談を通して今後 も説明をさせていただきます。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思ひますか。	6				されていると思ひます。	支援の方向性については面談等でも説明をさ せていただいております。子どもの成長に 伴って変化してゆく部分もありますので、 必要に応じて変更できるようにしてい きます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思ひ ますか。	5	1			外出など屋外での活動を好むので、その 日は、嬉しそうです。	身体を大きく動かすあそびを中心に取 組んでいます。設定されたあそびの中にも 様々な要素が入っていますので、それ がわかりやすくお示しできるよ う工夫して参ります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会 がありますか。	3	3				
保護 者へ の説 明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	6				利用開始時、変更時はお知らせいた だいています。	契約時にそれぞれ説明をさせていただ いております。話を内容が多 く混乱させてしまう かもしれませんので、わかり やすくお示し できるように していきます。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされ ましたか。	6					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレー ニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	6				定期的にされています。	ペアトレへのご参加ありがとうござ ひます。多くの方にご参加いただけるよ う、日程や内容を工夫してまいり たいと思ひます。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達 の状況について共通理解ができていると思ひますか。	6				お迎え時、何かあったときなど、報告 いただいたり話をできています。	LINEでのやり取りありがとうござ ひます。今後もお子様の発達支援 のため、ご連絡させていただきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われている 思ひますか。	6				まだ面談をしていない 面談時に詳しいお話しが聞けるので、 よく見てくださっているとと思 ひます。	お忙しい中、面談調整等ありがとう ござひます。定期的な面談以外でも ご要望ありましたら随時面談を行 っていきます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思ひますか。	6					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交 流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょう だい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設け られるなど、きょうだいへの支援がされているか。	2	4			兄弟むけのイベントもあれば楽しいです が無理にしないで良い気がします。兄 弟の年齢にもよると思ひます。	参加して下さった方々はお忙しい中 ありがとうござひます。親子で楽し めるイベントや活動内容については 充実させていきたいと思ひます ので、よろしく お願い致します。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6				学校との面談に参加していただきました。	面談や相談など対面だけでなく電話やオンライン面談など様々な形で対応させていただければと思います。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6				毎月の便りなどいただいています。	ホームページについても、ご利用にあたってなどの書類等でご案内させていただきたいと思っています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	2				なかよしだよりや、別な媒体を用いてマニュアルや訓練について広報していきたいと思っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	1				なかよしだよりや、別な媒体を用いて訓練の様子について広報していきたいと思っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	1			時に危険など感じたことはありません。	契約時に説明をさせていただいていますが、定期的にわかりやすい形で説明できるよう工夫していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6					小さなケガであっても報告漏れがないよう、業務日誌にケガ報告の欄を作りました。職員それぞれが関与と確認できるようになっていますので、連絡漏れがないよう気を付けていきたいと思っています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	6					

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		なかよしキッズ					公表日	令和8年 2月 27日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		必要に応じてカーテンやパーテーションで仕切っている。状況に応じて、部屋を分けて活動を行っている。グループ分けして少人数で活動できるようにしている。	子どもによってはカーテンで遊んでしまう児もいるため、実態に合わせて仕切り方を変えていきたい。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		子どもの人数や年齢によって活動を合同にするなど、職員の配置を考えている。	小集団と個別と、子どもの実態にあわせて、どちらも対応できるように、職員体制や対応方法について考えていきたい。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動内容や学年、グループに分けるなど、状況によって構造化している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		不要なものを置かないように気をつけている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	ロールカーテンで仕切って個室を作れるようにしている。	気持ちが悪くなった時にクールダウンできるような場所を設けたい。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		職員会、活動の反省会 朝の打ち合わせ LINEワークスを活用した業務連絡。	日々の活動や子どもたちの様子等を全体で共有することで、一丸となって支援に取り組めるようにしていきたい		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		Google フォームを使用して回答しやすくする。	ご意見に対してできる所から改善していきたい。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝の職員会や活動の反省会にて意見交換している。	時間を設けることが難しい日があるので、短い時間でも言葉交わしたり、LINEワークス等を活用して状況把握に努めたい。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		スタッフ派遣事業（やまびこ医療福祉センター）を活用した職員研修、公開保育参観による研修、発達支援センター等が主催する研修への参加、法人研修、定期的開催する事業所内研修（15分間研修、感染予防対策訓練など）	事業所内の短時間研修の内容を充実させ、今後も継続していく。		
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		見た人に分かりやすく、イラストなども取り入れるている。	毎年度、内容については更新できるようにしていく。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		5領域に対応した独自のアセスメント票を使い、保護者と直接話をしながら支援計画の作成に務めている。	支援計画に落とし込むまでに時間がかかってしまうことがあるので、課題の整理や他の職員の意見ももらって取り組むようにしたい。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		訪問支援員（作業療法士）や併行通園先（保育所、こども園等）の様子も考慮した上で連携して作成している。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		ポイントに絞った目標設定を行い、日々の活動でも目的を明確にして取り組んでいる。反省会などで出た意見なども取り入れている。	個々の支援計画の内容について共有が浅い部分もあるので、職員間で話や説明をしていきたい。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		遠城寺発達検査や5領域に沿ったアセスメントシートの活用 子どもに応じて医療機関での発達検査			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		支援計画に項目を記載し、保護者にも説明を行っている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		子どもたちの様子などに応じて、グループリーダーを中心にチームで話し合いながら活動を組み立てている。	グループ内だけでなく、専門職などからの意見も取り入れることで、活動がより整理されるような体制をつくる。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		継続した活動の中で、少しずつ課題を変えていくことで内容の充実や発展をさせている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		身辺整理や食事、パニックになった時など子どもの様子に合わせて支援方法を変えている。	専門職が個別対応する時間などを設けることで、支援の幅を広げていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動前に打ち合わせをする時間を設ける。	グループの職員が入れ替わった際の共有が不十分。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		活動前に必ず打ち合わせをする時間を設けている。	グループの職員が入れ替わった際の共有が不十分なときがあるので注意したい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		業務日誌や活動日誌等に記録し、ケース記録として振り返ることがある。	記録の効率化を図りたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		保護者との面談によるモニタリング、関係機関への聞き取り、訪問支援員の情報共有を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		活動を組み立てる際に、「4つの基本活動」と実際に行っている活動とをリンクさせている。	ガイドラインに立ち返りながら、よりよい活動が行えるようプログラムを考えていきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動内容（何をしてあそぶか）など子どもたちで意見を出して話し合いをするなど、小集団の中でどのように表現したり、考えたり、決定していくのか実践している。	将来の自立に向けて、「自分で考えて決める」という行為が習慣化されていくよう努めたい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管、専門職、グループリーダーなどが参加する。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保健センター やまびこ医療福祉センター 保育園、幼稚園、こども園、小学校等の連携	今後も必要に応じて連絡をとりあい、情報共有できるようにする
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		電話や送迎時のやり取りにより、情報共有を行っている。 保育所等訪問支援の際に訪問支援員を介してやり取りすることもある。	こまめに連絡をとることで学校側にも認知してもらい、情報共有しやすい環境を作っていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		現在は、全員が当法人の事業所を利用していたので、事業所間で綿密に情報共有できている。また、各併行通園先についても連携会議や保育所等訪問支援を活用して連携体制がとれている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。			該当なし	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		医療機関の専門職による指導支援や法人内の作業療法士による指導支援を受けている センター主催の研修への参加	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			必要に応じて検討していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			議事録などについては情報を得ているので、内容についても職員間で共有していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳、LINEの活用 必要に応じて面談や専門支援員による発達相談の案内を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		年6回の内容でペアレントトレーニング実施 定期的な保護者会（なかよしタイム）の開催	多くの方に参加してもらうために、内容を記載した案内文を送るなど、興味をもってもらいやすくする工夫をしていく
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や変更があった場合、説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		相談支援とも連携しながら、こどもの様子や保護者の意向について丁寧に聞き取りを行っている。就学やその先のことまで触れながら、その子にとってよりよい支援が行えるよう話している。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		モニタリングやアセスメントも踏まえながら、支援の方向性について同意を得た上で交付している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		LINEを使ってのやりとりを経て、必要に応じて専門支援員による発達相談を行っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者参加型の親子のつどい（遠足など）を行ったり、学習会と茶話会をセットにした「なかよしタイム」を開催している	きょうだい同士で交流する機会を設けられるように、親子活動などを計画したい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		発達相談の案内を行ったり、相談支援と連携を図りながら対応している。	
	42	定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月1回「なかよしだより」発行	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		項目ごとに分けた個人情報承諾書に基づき個別に対応している	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		連絡帳やLINEの活用。LINEの場合は写真や動画も活用している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		駐車場の貸し出し 災害時の交通渋滞によるトイレの貸し出し 園外に時計の設置することで歩行者への時間の周知	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年間計画の段階で予定に入れている。 保護者には契約時に災害伝言ダイヤルや避難場所の説明をしている。	各種マニュアルについては、保護者向けに内容を整理して、配布できるようにしたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		災害訓練（火災・水害・地震）を定期的に行っている。 職員の安否確認の訓練を行っている。	消防署も交えた訓練を行えるようにする。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時、年度更新、支援計画更新ごとに児童表に記入してもらっている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		給食職員と連携して対応。 マニュアルを作成し、共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		避難訓練やBCPの内容に関連して訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害伝言ダイヤルの案内 緊急連絡先の確認	BCPに基づく安否確認等について保護者向けの訓練を行っていきたい
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事例があった場合はすぐに共有、記録している。 法人内の事例についても共有する体制をとっている。	記録は綴っているが事例集とはなっていない 委員会で新書式への移行を検討中
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部研修や事業所内の研修にて機会を確保している。	チェックリスト等を使用し、虐待について定期的に考える機会を設けていきたい
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		個別支援計画にも注意書きを記載、必要な場合には保護者に相談の上、支援計画に記載すると説明を行っている。	身体拘束マニュアルの内容について検証し、更新していきたい。